

中国農村の視察調査について

高橋 明善

遂げていました。

四月二七日出発で五月一〇まで、日中農林水産交流協会への中国農業部（農林省）農村研究中心（センター）の招待で、高橋を団長として七人の視察調査団が中国を訪問しました。高橋が団長といふことで農村研究中心側としては始めての社会学の調査団として受け入れてくれました。計画が急に持ち上がったので、村研の研究会などで参加者をつのりましたが、結果的には、徳野会員と北京滯在中の柄沢会員が加わっただけでした。調査視察には、同研究中心の学术委員会の副主任であり、日中の双方に詳しく述べ訪問され、現在求められる最高の日中双方の農業農村の理解者であると思われる劉志仁氏がつききりで他の通訳とともに案内してくれましたので大変に効率的で有意義な訪問でした。

視察調査課題は「市場経済導入に伴う農村社会構造の変化」でした。北京での聞き取りや市場調査を経て、山東省青島市、平度市などにその管轄内の鎮や郷ならびに村や農家、江蘇州蘇州市や周辺の鎮、郷、村、農家、上海市などを訪れました。市場制度導入によって、中国は急ピッチで変化しているようです。郷鎮企業や、村の運営、家族、両田制、個人的あるいは集団的な請負の規模經營などいくつかの事例を見ることができました。

一年前社会学訪中団の一員として、故福武会員らと共に訪問した、同会員の戦時中の調査地蘇州周辺の村も訪れましたが、一年前の面影は全く見ることができないほど、現代化し、大きな変化を

この団体に参加されれば中国訪問の機会が増えると思います。詳細は日中農林水産交流協会（〒103-1五六八八一〇三八一）あるいは高橋にお問い合わせ下さい。